

400万人に達すると見込まれています。

八百津町においては、介護保険事業計画に基づき、平成22年6月には医療法人大治会により小規模老人保健施設29床と、グループホーム1ユニット9床の開設を行っていただき、また公募により、本年度は新規社会福祉法人による地域密着型の介護老人福祉施設29床と、通いや宿泊ができる小規模多機能型施設を整備する運びとなりました。特別養護老人ホームなどの既存施設と合わせ、入居希望者に対応しているところでございます。

今年度は介護保険制度の大幅な改正なども予定されており、事業計画を見直す予定となっております。

次に2番目の在宅支援と地域での支え合いの仕組みづくりについてでございますが、現在地域包括支援センターでは、認知症について正しく理解し、認知症やその家族を温かく見守る応援者としての「認知症サポーター」の養成講座を開き、サポーターの養成に力を入れているところでございます。現在までに279名のみなさんに、この講座を受講していただき、今後、地域のアドバイザーとして活躍いただくことなどを期待しております。また本年度は地域包括支援センターの職員が各地区で巡回相談会を開催して、ご家族や地

域の方からの相談を受け付け、早めの対応、支援に努めて参りたいと考えております。

問 団塊の世代の方が65歳を迎え、ボランティア等で地域貢献をしていく意思を有する方が、活躍できる場が必要と考えられる。こうしたボランティア組織の立ち上げや育成、相談、指導についての考えを伺う。

答 (額健康福祉課長) 地域貢献をしていく意思を持った方々の掘り起こしや、組織の立ち上げ、育成については、行政はもとより、社会福祉協議会の役割が大変重要であると認識しております。かかる最低限の経費なども必要とされると思えます。例えば、地域での支え合い活動に、ワンコインの謝礼を出すなど、組織や活動が持続性のあるものになるよう、今後関係機関と検討を重ねて参りたいと思えます。

問 先駆的な地域では、要支援者が地域で支える仕組み作りが進んでいる。当町においても、見守りネットワークなどが実施されているが、一方で、居宅への訪問、直接的な生活支援する支え合いの仕組みが必要だと考えている。現在検討しておられる仕組みがあればお聞かせいただきたい。

答 (額健康福祉課長) 八百津町では、見守りネットワーク事業として、平成24

年度・25年度の2年間で、町内外の19の事業者さんや個人の皆さんと協定を締結し、要援護者の見守り活動や、異変情報の収集やその対応についてご協力を願っているところであります。特に認知症に対する対策としては、平成27年度以降、認知症地域支援推進員を配置し、認知症の人やその家族を支えていきたいと考えています。地域包括支援センターでは、訪問活動を通じて、日頃から高齢者やその家族の実態把握に努め、関係機関と情報を共有しながら対処して参りたいと存じます。買い物支援などの直接的な支援に際しましても、地域の重要課題であることを認識しながら、現在鋭意調査研究中であります。また、福祉活動を目的に活動をいただいているNPO活動などへの町民の皆様のご理解も頂戴しながら、来る高齢社会への取り組みを、町民のみなさんと一緒に考えていきたいと考えています。

問 がんばる地域交付金について
大ホールの照明設備について
が、国から岐阜県に約16億5千万円、八百津町に対しては県下では4番目に多い予算をい

林 俊宏 議員

問 大ホールの照明設備について

が、国から岐阜県に約16億5千万円、八百津町に対しては県下では4番目に多い予算をい

ただけると聞いている。その計画は、ファミリーセンター大ホールの照明、給食配送車の購入、一部河川改良工事、ファミリーセンター東寄りの南北線道路改良整備工事の4点で進められている。

答 (堀部教育長) 八百津町は第4次総合計画において、芸術・文化の大切さを強調しています。その中に、まちづくりの将来像「やさしさ」と、みどりあふれる、活気あるまち、やおつ」を指すとありますが、その将来像の実現に向けての基本目標の一つに、「次代を担う人材を育成し、誰もが共に学ぶことのできる八百津らしい文化の創造に向け、心豊かな人を育む教育・文化のまちづくりを進めます」とあります。さて、ファミリーセンター大ホールの拠点と考えております。八百津町民や表現活動を行う文化団体の方々にとって、必要不可欠なものであります。同時に、地域の活性化の源として八百津の豊かな暮らしづくりに役立っている施設です。

また、ファミリーセンターは、地域のシンボルとしての存在であるといえます。

今までは、ファミリーセンター大ホールでは、「芸術文化の鑑賞の機会」や「芸術文化の発表の機会」の充実に努めてまいりました。「各種行事での活用」も行われています。昨年度で言えば、「森山威男ジャズ演奏会」「落語寄席」「吹奏楽の演奏」「文化協会芸能発表会」「カラオケ大会」「講演会」「成人式」等で、述べ5100名が活用しております。一方、かかったコストは、昨年度、ファミリーセンター全体で625万円ほどです。

ところで、このような町民になくてはならないファミリーセンターですが、昭和59年に建てられ、今年で30年を迎えようとしています。しかし、大ホール内の照明設備は一度も設備更新がなされておりません。そして、現在使える照明設備は、劣化が著しく、本来使えるはずの能力が発揮されておりません。私たちが行政に携わるものにとって、ファミリーセンター大ホールを地域の重要な財産として維持し、誰にとっても安全・安心・快適な場所として管理をしていくことは、重要な仕事であると考えています。

改修後は、大ホールの利用を増やすために、4つのことを考